

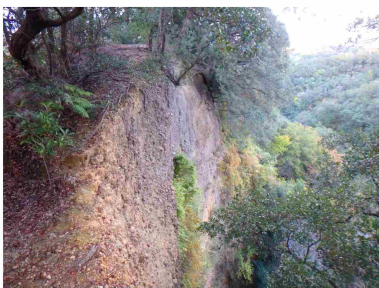
森づくり最前線

天竜森林管理署 掛川森林事務所 森林官 瀬川元気

私の勤務する掛川森林事務所は静岡県西部に位置する掛川市にあります。掛川駅から近く、周辺には山内一豊が治めた掛川城や、ラグビーワールドカップで試合会場となったエコパスタジアム、掛川花鳥園などの観光地があります。森林事務所から南方にある小笠山の国有林の管理を主に行っています。

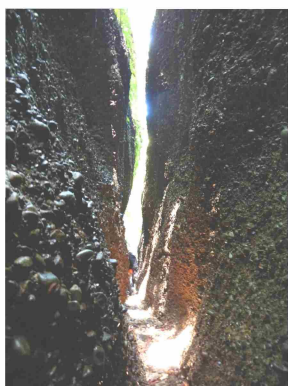
小笠山は、掛川市と袋井市にまたがる標高264.8mの低山で、その西側が国有林となっており、ふもとには茶畑が広がっています。里山と呼ばれるタイプの山ですが、ウバメガシが主体の天然林が広がり、長距離を移動することで有名なアサギマダラや、「月、日、星、ホイホイホイ」の鳴き声

が特徴のサンコウチョウなど、希少な動植物を見ることができます。また、



▲ ケスタ地形

地質的にも特徴があり、南西側はなだらかな斜面ですが、北東側では侵食が進み、崖状の地形(ケスタ)が現れ、岩肌を露出している場所が多くあります。中でも深い谷間にある六枚屏風は、一見の価値ありです。このように魅力溢れる場所であるため、自然観察会や野鳥観察会などのイベントが定期的に開かれています。国有林の一部を「レクリエーションの森(小笠山自然観察教育林)」に指定し、皆さんに快適に利用していただくため、歩道の巡視や危険木の撤去、最近では歩道沿いの樹木に樹名板を付ける取組を行っており、ハイカーから好評を得ています。



▲ 六枚屏風(内側)

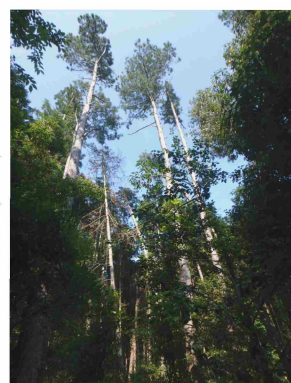
天然林が多くを占める小笠山の国有林ですが、全体の2割程度は人工林です。そのなかには、早生樹として最近注目を集めるテーダマツも植えられています。早生樹とは、一般的な人工林の樹種であるスギやヒノキと比較し成長が早い樹種で、30年生程度で木材利用が期待されています。昨年度には、テーダマツの活用のため、天竜森林管理署と静岡県森林林業研究センターの合同調査が行われました。小笠山のテーダマツは既に利用期を迎えていることから、「伐って、使って、植える」循環利用が確立できるよう、取り組んでいきたいと思っています。



▲ 自然観察会



▲ 樹名板



▲ テーダマツ



▲ 瀬川森林官